

# 2017年度 研究所事業報告書

研究所名	人文科学研究所
研究所長名	遠藤 英樹

## I. 研究成果の概要

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5ヵ年)および2017年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。

人文科学研究所は2017年度において3つの重点プロジェクト以外に、8つの研究助成プログラムを組織し、人文科学・社会科学の深化と刷新を試みた。重点プロジェクトにおいては、3つの課題——(1)「史料の収集・蓄積を重視した日本近代社会・思想史研究」、(2)「現代社会と人間を解読するための哲学、倫理学、宗教学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角の模索」、(3)「グローバルなフローの只中にあるアジア地域が直面する諸課題に関する考察と実践的な対応の模索」——を強く意識しながら研究を行った。「史料の収集・蓄積を重視した日本近代社会・思想史研究」においては、当研究所内で50年余りの歴史を有する近代日本思想史研究会が中心となり、3～5年毎に中期的テーマを新たに設定し、研究成果を蓄積した。「現代社会と人間を解読するための哲学、倫理学、宗教学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角の模索」においては、「間文化現象学研究」と「暴力からの人間存在の回復」の2つのユニットによって研究を推進し、人間科学に関する学際的な研究を積極的に蓄積した。「グローバルなフローの只中にあるアジア地域が直面する諸課題に関する考察と実践的な対応の模索」では、「政治・経済」的な側面および「観光・地理・文化」的側面からのアプローチを行い、グローバリゼーションに直面するアジア地域を多方面から研究した。

### 研究成果の発信と社会貢献

研究所の各重点プロジェクトである、①「敗戦と戦後政治体制構想」(代表:小関素明)、②「間文化現象学と暴力からの人間存在の回復」(代表:谷徹)、③「グローバル化とアジアの地域」(代表:遠藤英樹)による研究成果の発信と社会貢献は、2017年度において以下のようなものである。

「敗戦と戦後政治体制構想」プロジェクトでは、研究会を3回開催し、小特集「立憲主義の『深層』から『真相』へ—その元素と枢点をみすえて—」(『人文科学研究所紀要』115)を刊行した。また海外での研究発表、史料調査にも緒がつけられた。「間文化現象学と暴力からの人間存在の回復」プロジェクトでは、間文化現象学研究センターと連携して、間文化現象学ワークショップ「倫理—水俣からその根源をたどる」の開催、アメリカ思想史研究の第一人者であるマーティン・ジェイ氏を招聘し間文化現象学シンポジウム「『うつむく眼』と間文化性」の開催を支援した。またジェイ氏「『うつむく眼』の翻訳・刊行を行う他、メンバーの多くが『メルロ＝ポンティ読本』に分担執筆した。「グローバル化とアジアの地域」プロジェクトでは、研究成果の発信をグローバルに広く、積極的に行ってきた。具体的には、「グローバル化以後の東アジア」をテーマとして、中央大学校(韓国)で開催された日中韓三大学国際シンポジウムに参加し研究報告を行ったり、立命館大学において「グローバル化時代のナショナリズムと民主主義」に関する国際ミニシンポジウムに関する国際ワークショップを開催したりした。また前年度に引き続いて、ヨナス・ラースン氏をデンマーク・ロスキレ大学より招聘し、観光的移動(ツーリズム・モビリティ)をテーマに講演会を開催した。その他、吉松孝氏(TVプロデューサー、番組司会者)と安田峰俊氏(ノンフィクションライター)を招聘し「ジャーナリズムとアジアのツーリズム」の講演会を行った。

### 若手研究者の支援

人文科学研究所では本年度も、読書会、研究会・ワークショップにおける発表、調査・フィールドワークなど、多様な機会をとらえて、若手研究者の育成をはかってきた。具体的には若手研究者自身がワークショップをコーディネートできる機会を提供したり、また若手研究者育成を目的に国内外の最新業績を批判的に検討する読書会を開催したりした。さらに博士後期課程に在学する大学院生に対しても、積極的に研究会・ワークショップにおける発表機会を提供するとともに、現地調査・フィールドワークを実施した。

本年度の研究活動は未だ課題を残している部分もあるが、所期の目的を順当に推進しつつあると言える。

## II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2018年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	小関 素明	文学部	教授
運営委員	谷 徹	文学部	教授
	加國 尚志	文学部	教授
	遠藤 英樹	文学部	教授
	藤巻 正己	文学部	特命教授
	足立 研幾	国際関係学部	教授
	川村 仁子	国際関係学部	准教授
	平野 仁彦	法学部	教授
	加藤 雅俊	産業社会学部	准教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	ウェルズ 恵子	文学部	教授
	鳶野 克己	文学部	教授
	北尾 宏之	文学部	教授
	伊勢 俊彦	文学部	教授
	岡本 雅史	文学部	教授
	萩原 正樹	文学部	教授
	加藤 政洋	文学部	教授
	田中 聡	文学部	教授
	神田 孝治	文学部	教授
	庵途 由香	文学部	教授
	亀井 大輔	文学部	准教授
	林 芳紀	文学部	准教授
	河角 直美	文学部	准教授
	加納 友子	文学部	准教授
	奈良 勝司	文学部	助教
	麻生 将	文学部	特任助教
	松下 冽	国際関係学部	特任教授
	De Antoni Andrea	国際関係学部	准教授
	クロス 京子	国際関係学部	准教授
	井澤 友美	国際関係学部	助教
	小澤 亘	産業社会学部	教授
	石崎 祥之	経営学部	教授
	佐藤 愛	言語教育センター	外国語嘱託講師
	羽谷 沙織	国際教育推進機構	准教授
	駒見 一善	国際教育推進機構	准教授
	轟 博志	APU アジア太平洋学部	教授
	四本 幸夫	APU アジア太平洋学部	教授

学内の若手研究者	① 専門研究員・研究員	吉田 武弘	衣笠総合研究機構	専門研究員
	② リサーチアシスタント			
	③大学院生	伊故海 貴則	文学研究科	博士後期課程 1 回生
		十河 和貴	文学研究科	博士後期課程 1 回生
		有村 直輝	文学研究科	博士後期課程 1 回生
		松田 智宏	文学研究科	博士後期課程 1 回生
		酒井 麻依子	文学研究科	博士後期課程 1 回生
		横田 祐美子	文学研究科	博士後期課程 1 回生
		宮下 祥子	社会学研究科	博士後期課程 2 回生
		前田 一馬	文学研究科	博士後期課程 2 回生
		斉藤 仁志	文学研究科	博士後期課程 3 回生
		森田 耕平	文学研究科	博士後期課程 4 回生
		谷崎 友紀	文学研究科	博士後期課程 4 回生
		織田 康孝	文学研究科	学振特別研究員 DC
		山口 一樹	文学研究科	学振特別研究員 DC
寺澤(奈良) 優	文学研究科	学振特別研究員 DC		
④日本学術振興会特別研究員 (PD・RPD)	鈴木 崇志	衣笠総合研究機構	学術特別研究員 PD	
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究生、研修生等)	中谷 義和	文学部	非常勤講師 (人文研上席研究員)	
	丸山 彩	文学部・法学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)	
	猪原 透	文学部	非常勤講師	
	青柳 雅文	文学部	非常勤講師	
	神田 大輔	文学部	非常勤講師	
	小林 琢自	文学部	非常勤講師	
	田邊 正俊	文学部	非常勤講師	
	林 尚之	経営学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)	
	西口 清勝	経済学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)	
	穎原 善徳	経済学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)	
	伊藤 理史	産業社会学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)	
	眞杉 侑里	文学部	非常勤講師	
	今西一	文学研究科	非常勤講師	
	城下 賢一	文学部	非常勤講師	
	梶居佳広	経済学部	非常勤講師	
	市川 博規	文学研究科	博士前期課程 1 回生	
	柳川 耕平	文学研究科	博士前期課程 2 回生	
	LU Zhenni	文学研究科	博士前期課程 2 回生	
	ZHANG Ye	文学研究科	博士前期課程 2 回生	
	客員協力研究員	赤澤 史朗	人文科学研究所	上席研究員
Hakkarainen Nina Helena		社会学研究科	国際調査教育センター	
島田 龍		人文科学研究所	客員研究員	

	佐々木 葉月	人文科学研究所	客員研究員
	村上 友章	流通科学大学	准教授
	佐藤 太久磨	漢陽大学校調	教授
	乙部 延剛	茨城大学人文学部	専任講師
	西田 彰一	国際日本研究センター	共同研究員
	韓 準祐	多摩大学	専任講師
その他の学外者	佐藤 勇一	福井工業高等専門学校	准教授
	川崎 唯史	国立循環器病研究センター	非常勤研究員
	黒岡 佳柁	福州大学(中華人民共和国)	副教授
	山本 勇次	大阪国際大学	名誉教授
	河村 有介	衣笠総合研究機構	学術特別研究員 PD
	瀬川 真平	大阪学院大学	教授
	橋本 和也	京都文教大学	教授
	石井 香世子	立教大学	教授
	古村 学	宇都宮大学	准教授
	大野 哲也	桃山学院大学	教授
	峯俊 智穂	追手門学院大学	准教授
	薬師寺 浩之	奈良県立大学	専任講師
	池田 裕輔	東京大学	学術特別研究員 PD
	小田切 建太郎	京都大学	学術特別研究員 PD
研究所・センター構成員 計 94 名 (うち学内の若手研究者 計 16 名)			

### III. 研究業績

本欄には、「II. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2018年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	林尚之	近代日本立憲主義と制憲思想	単著	2018年2月	晃洋書房		204頁
2	赤澤史朗	触発する歴史学—鹿野思想史と向きあう	共編著	2017年8月	日本経済評論社	北河賢三・黒川みどり・戸邊秀明	
3	赤澤史朗	靖国神社—「殉国」と「平和」をめぐる戦後史	単著	2017年7月	岩波書店		1~349頁
4	今西一	帝国日本の異動と動員	共著	2018年1月	大阪大学出版会	飯塚一幸	1~21頁
5	奈良勝司	卒論編纂委員会編『二〇一七年度卒業論文集 近代の胎動と展開』	共著	2018年3月	立命館大学文学部奈良勝司研究室		
6	加國尚志 亀井大輔 酒井麻依子 佐藤勇一	『メルロ=ポンティ読本』	共著	2018年3月	法政大学出版局	松葉祥一 本郷均 廣瀬浩二(編者)	
7	亀井大輔 神田大輔 青柳雅文 佐藤勇一	『うつむく眼—20世紀フランス思想における視覚の失墜』	共訳	2017年12月	法政大学出版局	マーティン・ジェイ(著)	

	小林琢 自 田邊正俊 (訳)						
8	加國尚志 横田祐美子	『メルロ＝ポンティ哲学者 事典別巻：現代の哲学・年 表・総索引』	共著	2017年11月	白水社	加賀野井秀一・伊藤 泰雄・本郷均・加國 尚志監修	
9	佐藤勇一	<i>Phenomenology and the Problem of Meaning in Human Life and History</i>	共著	2017年12月	Verlag Traugott Bautz GmbH	L'ubica Uenik and Anita Williams (Ed.)	pp. 277-291
10	遠藤英樹	メディア文化論 [第2版] ——想像力の現在	共編著	2017年8月	ナカニシヤ出版	遠藤英樹・松本健太 郎・江藤茂博 [編著]	
11	遠藤英樹	女性とツーリズム——観光 を通して考える女性の人生	共著	2017年9月	古今書院	友原嘉彦 [編]	3-18
12	遠藤英樹・ 神田孝治	ポケモンGOからの問い— —拡張される世界のリアリ ティ	共編著	2018年1月	新曜社	神田孝治・遠藤英 樹・松本健太郎 [編 著]	
13	神田孝治	記録と記憶のメディア論	共著	2017年12月	ナカニシヤ出版	谷島貴太・松本健太 郎 [編著]	127-143
14	藤巻正己	都市の景観地理	共著	2017年4月	古今書院	阿部和俊 [編著]	1-12
15	加藤政洋	モダン京都——(遊樂)の 空間文化誌	共編著	2017年4月	ナカニシヤ出版	加藤政洋 [編著]	
16	橋本和也	地域文化観光論——新たな 観光学への展望	単著	2018年2月	ナカニシヤ出版		
17	井澤友美	バリと観光開発——民主 化・地方分権化のインパク ト	単著	2017年6月	ナカニシヤ出版		
18	中谷義和	国家論序説	単著	2017年7月	御茶の水書房		
19	加藤雅俊	国民再統合の政治	共著	2017年8月	ナカニシヤ出版	新川敏光 [編]	97-127
20	中谷義和・ 加藤雅俊ほか 訳	ボブ・ジェソップ『国家』	共訳	2018年3月	御茶の水書房		

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共 著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者 名	担当頁数	査読有無
1	吉田武弘	近代日本と二つの上 院像の相克—「為政」 と「抑制」のあいだ	単著	2018年2月	『人文学の正午』8 (人文学の 正午研究会)		33～57頁	有
2	伊故海貴則	近世後期～幕末期に おける『議論』と『意 志決定』の構造	単著	2018年3月	『立命館大学人文科学研究 所紀要』115		7～41頁	有
3	十河和貴	元老再生産と大正後 期の政界—松方正 義・牧野伸顕・平田 東助を中心として—	単著	2017年7月	『日本史研究』659		26～50頁	有
4	十河和貴	台湾銀行頭取時代の 中川小十郎と南進へ の理想—戦後不況と 積極的財政整理方針 の終焉—	単著	2018年3月	立命館史資料センター編『史 資料センター紀要 創刊号— 中川小十郎研究論集—』		143～85頁	無
5	十河和貴 (許任慈 訳)	「轉換期」的總督權 限問題：以政黨內閣 期前夜の台灣總督・ 田健治郎の動向為中 心	単著	2018年1月	李福鐘・若林正文・川島真・ 洪郁如主編『跨域青年學者台 灣與東亞近代史研究論集第二 輯』稻郷出版社		3～27頁	有
6	穎原善徳	日清戦後における条 約の国内実施と憲法 典による規制	単著	2018年3月	『立命館大学人文科学研究 所紀要』115		48～80頁	有

7	織田康孝	《八重潮》の成立と展開—日本軍政下のジャワにおける公募歌曲—	共著		『立命館平和研究』19	丸山彩	37～41頁	有
8	織田康孝	日本軍政下ジャワ島における占領統治構想とメディア	単著	2017年10月	『メディア史研究』42		85～111頁	有
9	丸山彩	《八重潮》の成立と展開—日本軍政下のジャワにおける公募歌曲—	共著		『立命館平和研究』19	織田康孝	37～41頁	有
10	林尚之	自由と共同性—プレーパーク事業の事例から	単著		梅田直美編『OMUPブックレット No.62 子育てと共同性—社会的事業の事例から考える』大阪公立大学共同出版会		48～61頁	
11	梶居佳広	日韓国交正常化（1965年）と主要紙社説	単著	2017年9月	立命館経済学66-3			有
12	梶居佳広	日本国憲法をめぐる新聞論説—施行70年の憲法記念日を中心に—	単著	2017年9月	社会システム研究35			有
13	梶居佳広	岸内閣期（1957～1960年）の主要地方紙社説・論説—一覧—日中・日韓関係、日米安保改定と憲法問題をめぐって（1）	単著	2018年1月	立命館経済学66-5			有
14	梶居佳広	岸内閣期（1957～1960年）の主要地方紙社説・論説—一覧—日中・日韓関係、日米安保改定と憲法問題をめぐって（2）	単著	2018年3月	立命館経済学66-6			有
15	佐藤太久磨	主権的秩序をめぐる二つの法理（2）—帝国日本のインターナショナルリズムとその航跡	単著	2017年6月	『比較日本学』39、韓国・漢陽大学校日本学国際比較研究所		159～78頁	有
16	佐藤太久磨	〈アジア〉への回帰—「大東亜共栄圏」と「アジア連合」	単著	2018年1月	『史叢』93、韓国・高麗大学校歴史研究所		119～51頁	有
17	島田龍	左川ちか研究史論—付左川ちか関連文献目録増補版—	単著	2018年3月	『立命館大学人文科学研究所紀要』115		81～157頁	有
18	奈良勝司	海保青陵と近世後期の世界観	単著	2018年3月	『「2018 第三屆台灣與東亞近代史青年學者學術研討會」會議論文』、国立政治大学台湾史研究所		213～228頁	無
19	奈良勝司	人見・中川両苗の由緒意識と近世～幕末社会	単著	2018年3月	『立命館 史資料センター紀要』創刊号		29～78頁	無
20	奈良勝司	〈特集〉日本研究の道しるべ—必読の一〇〇冊 社会文化史	単著	2018年3月	『日本研究』第五七号		95～105頁	無
21	奈良勝司	明治維新論の現状と課題	単著	2017年12月	『歴史評論』第八一二号		5～15頁	有
22	奈良勝司	慶応元年一〇月五日の簾前評議 —一会桑勢力と『公議』—	単著	2017年10月	桑名市博物館編・発行『幕末維新と桑名藩 ～一会桑の軌跡～』		74～80頁	無

23	谷徹	文明・文化と「零」	単著	2018年3月	『文明と哲学』第10号、公益財団法人日独文化研究所		29～50頁	無
24	伊勢俊彦	経験世界のヒュームの再構成(三)	単著	2018年	『立命館文学』第657号、立命館大学人文学会		1～10頁	無
25	亀井大輔	エコノミーと戦略——デリダの脱構築における資源(リソース)の問題——	単著	2018年3月	『立命館大学人文科学研究所紀要』第114号、立命館大学人文科学研究所		79～97頁	有
26	池田裕輔	「オイゲン・フインク」の現象学的カント解釈について(後編)	単著	2018年3月	『立命館哲学』第29集、立命館大学哲学会		51～80頁	有
27	小田切建太郎(訳)	〈思索する〉と〈建築する〉——構築、脱構築、再構築	単独訳	2018年3月	『文明と哲学』第10号、公益財団法人日独文化研究所	フェリクス・ハイデンライヒ(著)	265～280頁	無
28	横田祐美子	黒衣の娼婦と脱ぎ去りの思考—『内的体験』の鍵としての『マダム・エドワルド』—	単著	2018年3月	『関西フランス語フランス文学』第24号、日本フランス語フランス文学会関西支部			有
29	横田祐美子(訳)	ジュダイズムはヒューマニズムか?	共訳	2018年3月	『人文学報 フランス文学』、514・515号、首都大学東京大学院人文科学研究科	ジョゼフ・コーエン×ラファエル・ザグリ=オルリ(著) 伊藤潤一郎(共訳)	87～113頁	無
30	酒井麻依子	メルロ=ポンティとG・ゲクス——ソルボンヌ講義における『遺棄神経症』解釈	単著	2017年11月	『メルロ=ポンティ研究』第21号、メルロ=ポンティ・サークル		23～42頁	有
31	青柳雅文	〈非同一的なもの〉としての文化——アドルノの文化概念における間文化性と非同一性——	単著	2018年3月	『立命館大学人文科学研究所紀要』第113号、立命館大学人文科学研究所		29～44頁	有
32	佐藤勇一	エコノミーと自然法をめぐる間文化的考察—モンテーニュの新大陸とケネーの中国—	単著	2018年3月	『立命館大学人文科学研究所紀要』第114号、立命館大学人文科学研究所		99～124頁	有
33	黒岡佳征	情感性から生きる者たちの共同体へ——アンリのハイデガー批判から見る共同体の問題——	単著	2018年3月	『立命館大学人文科学研究所紀要』114号、立命館大学人文科学研究所		149～167頁	有
34	加國尚志	メルロ=ポンティとイメージの問題	単著	2108年1月	『形象』3号		44～64頁	無
35	加國尚志	キアスム、非連続の連続—西田哲学と後期メルロ=ポンティ存在論の接するところ	単著	2017年7月	『西田哲学会年報』第14号		72～84頁	無
36	加國尚志	抽象芸術と感情—アンリの生の現象学とリオタールの崇高—前衛論から	単著	2017年5月	『ミシェル・アンリ研究』vol.7		21～39頁	無
37	遠藤英樹	“Transference of Traditions” in Tourism: Local Identities as Images Reflected in Infinity Mirrors	単著	2017年6月	Asian Journal of Tourism Research、2巻1号		102～117	有
38	遠藤英樹	パフォーマティブなダークツーリズムの	単著	2018年3月	立命館文学(656号)		220～235	無

		可能性——「パフォーマンスティヴィティ」概念に関する批判的検討を通じて						
39	遠藤英樹	ツーリズム・モビリティーズ研究の意義と論点	単著	2018年3月	関西学院大学社会学部紀要(128号)		9~20	無
40	加藤政洋	基地都市コザにおける門前商店街「ゲート通り」の店舗構成とその特色	単著	2018年3月	立命館文学(656号)		236~253	無
41	轟博志	新羅の幹線駅路とその変化	単著	2017年12月	海路(13号)		15~30	無
42	加藤雅俊	On theoretical possibility of East Asian Welfare Regime: from the point of comparative politics	単著	2018年2月	Proceeding on International Symposium on "East Asia and the World after Globalization"		243頁(当日配布1~11頁)	無
43	加藤雅俊	「現代政治学におけるメタ理論の必要性—批判的実在論が問いかけるもの—」	単著	2017年12月	『横浜法学』26巻2号		97~145頁	無
44	小澤亘	「観光」をキーワードとする連携教育プログラムの実践—産社らしいアクティブ・ラーニングを求めて—	単著	2017年6月	『立命館産業社会論集』53巻1号		7~27頁	無
45	松下冽	「キューバ現代史を読む」	単著	2017年6月	『立命館国際研究』30巻1号		183~194頁	無
46	Andrea DE ANTONI	Death and Desire in Contemporary Japan. Introduction	共著	2017年5月	Death and Desire in Contemporary Japan Ca' Foscari University		1~22頁	
47	Andrea DE ANTONI	Feeling (in) Japan: Affective, Sensory and Material Entanglements in the Field.	単著	2017年9月	EJJS Bulletin 88		55~57頁	

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1.	吉田武弘	「両院関係問題」と憲政常道論の台頭(審査あり)	2018年3月	台湾與東亞近代史青年學者學術研討會、於台北・国立政治大学	
2.	吉田武弘	近代日本と両院関係問題	2017年9月	史創研究会例会、於奈良女子大学	
3.	吉田武弘	史学史の可能性のために—戸邊秀明氏・田中聡氏報告へのコメント	2017年7月	東アジア史学思想史研究会、於立命館大学	
4.	十河和貴	宮地忠彦氏の業績検討	2017年5月	日本史研究会近現代史部会・大会業績検討会 於京都 機関紙会館	
5.	十河和貴	1920年代における宮中勢力の台頭—「宮中要職の元老化」と一元的支配体制への対抗—	2018年2月	第81回内務省研究会、於國學院大學渋谷キャンパス	
6.	十河和貴	中川小十郎頭取時代の台湾銀行と「南進」への理想—戦後不況と積極的財政整理方針の終焉—	2018年1月	近代日本思想史研究会 於立命館大学	
7.	織田康孝	戦後日本・インドネシア関係史—戦中ネットワークを中心に—	2018年1月	近代日本思想史研究会 於立命館大学	
8.	織田康孝	『ウタノエホン 大東亜共	2017年6月	洋楽文化史研究会第90回例会、	酒井健太郎・松岡昌和・丸山彩



		栄唱歌集』(1943年)の編纂・刊行と『南方』への展開		於東京池袋ホール	
9.	織田康孝	日本軍政期ジャワの歌政策シンクタンクの意義と展望	2017年7月	立命館大学大阪いばらきキャンパス 国際シンポジウム	丸山彩
10.	西田彰一	寛克彦における「戦争」と「鎮魂」	2018年3月	日文研共同研究会「戦争と鎮魂」、於国際日本文化研究センター	
11.	西田彰一	加藤完治と神ながらの道	2018年2月	東アジア宗教研究フォーラム、於関西大学	
12.	西田彰一	寛克彦の思想形成—憲法学から「古神道」「神ながらの道」へ—	2017年11月	戦時法研究会11月例会、於上智大学	
13.	西田彰一	国体論者としての寛克彦—その思想と活動—	2017年7月	第9回国家神道・国体論研究会、於國學院大學	
14.	丸山彩	『ウタノエホン 大東亜共栄唱歌集』(1943年)の編纂・刊行と『南方』への展開	2017年6月	洋楽文化史研究会第90回例会、於東京池袋ホール	酒井健太郎・松岡昌和・織田康孝
15.	丸山彩	日本軍政期ジャワの歌政策シンクタンクの意義と展望(織田康孝との共同報告)。	2017年7月	立命館大学大阪いばらきキャンパス 国際シンポジウム	織田康孝。
16.	丸山彩	日本占領下のジャワにおける歌の記憶—ジャカルタ近郊での調査を通して—	2017年10月	日本音楽教育学会第48回大会、於愛知教育大学	
17.	林尚之	戦後憲法秩序と憲法九条改憲論	2017年6月	史創研究会主催シンポジウム「改憲論の現在—日本国憲法はどこへ向かっているのか」、於奈良女子大学	
18.	梶居佳広	日韓条約時の新聞社説	2017年4月	青丘文庫・在日朝鮮人運動史研究会 関西支部報告	
19.	梶居佳広	『真珠湾の真実：歴史修正主義は何を隠したか(平凡社新書、2015年)』を読んで	2017年6月	立命館大学経済学会セミナーシリーズ	
20.	佐藤太久磨	「創造」と「追想」の泡沫—「大東亜共栄圏」と「大東亜戦争」	2017年9月	高麗大学校アジア問題研究所現代日本センター学術会議、於高麗大学校アジア問題研究所	
21.	佐藤太久磨	「大東亜戦争」と「大東亜共栄圏」の哲理	2017年5月	中川家文書研究会・国外例会、於漢陽大学校日本学国際比較研究所	
22.	奈良勝司	海保青陵と近世後期の世界観	2018年3月	2018 第三屆台灣與東亞近代史青年學者學術研討會、於台灣・国立政治大学台湾史研究所	
23.	奈良勝司	近世後期の世界観と意思決定—海保青陵の言説からみる—	2018年1月	「公議」研究会、於キャンパスプラザ京都	
24.	奈良勝司	研究報告①「政治と外交」構想報告 条約勅許後の対外関係の構想と展開	2017年12月	明治維新史学会2018年記念大会第一回準備会、於立教大学池袋キャンパス	
25.	奈良勝司	近世後期の積極開国論と攘夷	2017年5月	中川家文書研究会、於韓国・漢陽大学校	
26.	寺澤ゆう	大正・昭和初期の都市社会と性風俗産業—芸妓・酌婦・女給・女衞・ダンサー—	2018年3月	近代日本思想史研究会 於立命館大学	
27.	伊勢俊彦	ヒュームの因果言説における現前と不在	2017年12月	因果・動物・所有：一ノ瀬哲学をめぐる対話	
28.	亀井大輔	デリダと歴史主義のアポリア—フーコー論からグラマトロジーへ—	2017年9月	日仏哲学会2017年秋季研究大会、明治大学	
29.	亀井大輔	Derrida and the Aporia of Historicism: Worldview, World-picture, and 'Epoch'	2017年10月	Creation and Destruction of the World, ソフィア大学(ブルガリア)	
30.	亀井大輔	歴史と言語—『幾何学の起源・序説』と「力と意味	2018年2月	Séminaire: Jacques Derrida à l'épreuve de la catastrophe, INALCO,	

		作用」		Paris	
31.	亀井大輔	マーティン・ジェイとジャック・デリダ——『うつむく眼』の後で	2018年3月	間文化現象学シンポジウム 『うつむく眼』と間文化性——21世紀における視覚の行方』、立命館大学	
32.	池田裕輔	Fink's Transcendental Phenomenology and the Problem of the World. A Replay to Steven Crowell	2017年6月	What is Phenomenology? Ideas from East Asia	
33.	池田裕輔	Der phänomenologische Horizontbegriff als Grundbegriff des ökologischen Denkens	2017年6月	Phänomenologie und Ökologie	
34.	池田裕輔	La phénoménologie face à Kant : le cas d'Eugen Fink	2017年10月	La phénoménologie et ses autres	
35.	鈴木崇志	他者理解において移入されるもの	2017年11月	日本現象学会第39回大会、大阪大学	
36.	小田切建太郎	ハイデガーのシェリング解釈について——根底と実存及び思惟以前の存在との連関における介在的な知——	2017年9月	第12回ハイデガー・フォーラム、京都大学	
37.	小田切建太郎	L'être en tant que contingent : un essai sur l'être chez Heidegger	2017年11月	The 3rd European Network of Japanese Philosophy Conference (ENOJP), Institut national des langues et civilisations orientales	
38.	小田切建太郎	Der Herd im geistesgeschichtlichen Kontext und die Medialität des Seins beim späten Heidegger	2017年12月	Werkstatt Phänomenologie, ウィーン大学	
39.	横田祐美子	La peur infinie ou la pensée philosophique	2017年9月	Japanese-Bulgarian Forum "The Philosophy and its Other", New Bulgarian University	
40.	横田祐美子	黒衣の娼婦と脱ぎ去りの思考：『内的体験』の鍵としての『マダム・エドワルダ』	2017年11月	日本フランス語フランス文学会関西支部大会、関西学院大学	
41.	青柳雅文	星座と視覚 アドルノにおける視覚をめぐるモチーフ	2018年3月	間文化現象学シンポジウム 『うつむく眼』と間文化性——21世紀における視覚の行方』、立命館大学	
42.	神田大輔	フッサール現象学における「見る」ことと動機づけ	2018年3月	間文化現象学シンポジウム 『うつむく眼』と間文化性——21世紀における視覚の行方』、立命館大学	
43.	小林琢自	直観と構築——初期クラカウアーにおける圏域論——	2018年3月	間文化現象学シンポジウム 『うつむく眼』と間文化性——21世紀における視覚の行方』、立命館大学	
44.	田邊正俊	文化と文明——ニーチェにおける二つの文化概念と一つの文明概念から考察する——	2017年7月	学術交流シンポジウム「間文化的に考える—ドイツ・インド・イタリア・ブラジル・日本の視点から—」、日独文化研究所	
45.	田邊正俊	「反視覚中心主義」と「視覚中心主義」の“あいだ”で——『うつむく眼』を手がかりとしたニーチェ思想をめぐる一考察——	2018年3月	間文化現象学シンポジウム 『うつむく眼』と間文化性——21世紀における視覚の行方』、立命館大学	
46.	佐藤勇一	いくつかの密かで非意図的な出会い——『うつむく眼』から四半世紀——	2018年3月	間文化現象学シンポジウム 『うつむく眼』と間文化性——21世紀における視覚の行方』、立命館大学	
47.	黒岡佳柁	間文化性と思考——他なるものとの宥和なき対立——	2017年7月	学術交流シンポジウム「間文化的に考える—ドイツ・インド・イタリア・ブラジル・日本の視点から—」、日独文化研究所	
48.	加國尚志	メルロ＝ポンティにおける現象学と形而上学	2017年9月	土井道子記念京都哲学基金シンポジウム	

49.	遠藤英樹	平和の記憶を紡ぐメディアとしての「パフォーマティブなツーリズム」——ダークツーリズムを弁証法的に乗り越える	2017年10月	人文科学研究所研究会「アジアにおける平和の記憶を紡ぐメディアとしてのダークツーリズム」、キャンパスプラザ京都	
50.	遠藤英樹	B1 グランプリの「欲望」——日本のフード・ツーリズムを事例として	2017年10月	アジアの国際観光交流について、奈良県立大学	
51.	遠藤英樹	ホラー映画の表象とメディアの物質性（マテリアリティ）——貞子はなぜテレビから這い出してくるのか？	2018年2月	二松學舎大学東アジア学術総合研究所共同プロジェクト「幽霊の歴史文化学」、二松學舎大学	
52.	遠藤英樹	文化産業論を移動論的に転回せよ！——欲望の生成装置における4th デイメンション化	2018年3月	二松學舎大学文学部シンポジウム「コンテンツ化するツーリズム——スマホ・ゲーム・聖地巡礼」、二松學舎大学	
53.	加藤政洋	戦後沖縄における基地都市の空間編成——コザを中心に	2018年2月	2018 ソウル・京都・台北 東アジア次世代フォーラム	
54.	加藤政洋	嘉手納基地における家族住宅の建設——土建会社の現場写真にもとづく景観復原	2017年9月	日本地理学会 2017 年秋季学術大会	
55.	韓準祐	ダークツーリズムの視角からみた済州 4.3 事件と麗水・順天事件の観光資源化における課題に関する研究	2017年10月	「アジアにおける平和の記憶を紡ぐメディアとしてのダークツーリズム」、キャンパスプラザ京都	
56.	Yotsumoto, Yukio	Activities and Issues of Tourism-Based Community Development (TBCD) in Japan: Cases of Oshima, Tokyo and Fukaura, Aomori	2017年12月	OVJEC Symposium: "What is Japan Studies?" (University of Education - Ho Chi Minh City, Vietnam)	
57.	Yotsumoto, Yukio and Vafadari Kazem	A Comparison of Globally Important Agricultural Heritage Systems (GIAHS) and World Cultural Heritage: Implications for Rural Development through Tourism	2017年11月	The 15th Asia Pacific Conference (Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu, Japan)	
58.	四本幸夫、韓準祐、畠田展行	地方自治体の観光まちづくりの取り組みと課題	2017年6月	The 1st Global Congress of Special Interest Tourism & Hospitality (Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu, Japan)	
59.	麻生将	「ミッションスクールをめぐる言説とナショナリズム——1933年の大島高等女学校廃校運動を事例に——」	2017年6月	『第60回歴史地理学会大会』、愛知教育大学	
60.	中谷義和	Global Syndrome of Neopopulism in the Era 'After Globalization'	2018年2月	『International Symposium on "East Asia and the World after Globalization"』、Chung-Ang University, (Korea)	
61.	加藤雅俊	On theoretical possibility of East Asian Welfare Regime: from the point of comparative politics	2018年2月	『International Symposium on "East Asia and the World after Globalization"』、Chung-Ang University (Korea)	
62.	加藤雅俊	他の手段を用いた社会的保護」モデルの特徴と行方——比較福祉国家論における日本と豪州	2018年2月	『CRAPE研究会』、摂南大学	
63.	加藤雅俊	現代政治学におけるメタ理論の必要性——批判的実在論が問いかけるもの	2017年9月	『日本政治学会研究大会』、法政大学	
64.	加藤雅俊	現代政治学におけるメタ理論の必要性——批判的実在	2017年9月	『批判的政治学研究会』、専修大学	

		論が問いかけるもの			
65.	加藤雅俊	現代政治学におけるメタ理論的基礎の必要性——新しい政治学に向けて	2017年7月	『批判的実在論研究会』、立命館大学	
66.	加藤雅俊	比較福祉国家論の到達点と課題——社会統合の変遷の政治学的分析に向けて	2017年7月	『比較福祉国家研究会』、一橋大学	
67.	加藤雅俊	比較福祉国家論の到達点と課題および今後の展望——政治学の立場から	2017年6月	『名古屋大学大学院経済学研究科課題設定型WS「社会経済研究」』、名古屋大学	
68.	Andrea DE ANTONI	European Association of Japanese Studies (EAJS)	2017年9月	Japan Anthropology Workshop Conference (Anthropology Section), Universidade NOVA de Lisbon	
69.	Andrea DE ANTONI	More-Than-Human Moves: of Everyday Entanglements and the Academy	2017年5月	the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) Conference, University of Ottawa	
70.	Andrea DE ANTONI	Give up the Ghost (of Japan): Steps to a Comparative Ecology of Spirits in Contemporary Japan and Italy	2017年8月	Kobe University Brussels European Center, Kobe University	
71.	Andrea DE ANTONI	Feeling (in) Japan: Affective, Sensory and Material Entanglements in the Field.	2017年8月	European Association for Japanese Studies (EAJS) Conference, Universidade NOVA de Lisbon	
72.	Andrea DE ANTONI	朝鮮人の幽霊を掘り出すトンネル—京都の心霊スポットにおける感覚、環境と言説の構築過程をめぐって	2018年1月	立命館大学コリア研究センター月例研究会	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1.	第1回近代日本思想史研究会	立命館大学 学術館 第2研究会室	2018年1月	15名	
2.	第2回近代日本思想史研究会	立命館大学 学術館 第2研究会室	2018年1月	15名	
3.	第3回近代日本思想史研究会	立命館大学 学術館 第2研究会室	2018年3月	15名	
4.	Carina Pape 氏講演会 Lacks and Surpluses——The Value of Diversity	立命館大学 末川記念会館	2017年6月	約20名	立命館大学人文科学研究所
5.	コーエン氏・ザグリ=オルリ氏講演会 ジュダイズムはヒューマニズムか?—— デリダ、レヴィナス、ハイデガーをめぐって	立命館大学 末川記念会館	2017年7月	約30名	
6.	フェリクス・ハイデンライヒ氏講演会 〈思索する〉と〈建築する〉——構築・脱構築・再構築——	立命館大学 末川記念会館	2017年10月	約20名	公益財団法人日独文化研究所
7.	マティアス・オーベルト氏講演会 日本庭園についての現象学的考察	立命館大学 末川記念会館	2017年11月	約20名	
8.	ニルス・ヴァイトマン氏講演会 根本諸経験としての間文化哲学	立命館大学 末川記念会館	2018年2月	約20名	公益財団法人日独文化研究所
9.	間文化現象学ワークショップ 倫理——水俣からその根源をたどる	立命館大学 末川記念会館	2018年3月	約50名	
10.	間文化現象学シンポジウム 『うつむく眼』と間文化性——21世紀における視覚の行方	立命館大学 末川記念会館	2018年3月	約120名	
11.	研究会「アジアにおける平和の記憶を紡ぐメディアとしてのダークツーリズム」	キャンパスプラザ 京都	2017年10月	30名	JSPS 科研費 基盤研究 (C) 17K02142
12.	講演会「ジャーナリズムとアジアのツーリズム」	衣笠キャンパス	2017年11月	30名	

13.	講演会「Running and Tourism: A Practice Approach」	衣笠キャンパス	2018年2月	80名	JSPS 科研費 基盤研究(C) 17K02142
14.	国際ミニシンポジウム「グローバル化時代のナショナリズムと民主主義」	衣笠キャンパス	2017年10月	30名	
15.	国際ワークショップ「イギリスのEU離脱」	衣笠キャンパス	2017年10月	15名	立命館大学法学会
16.	The Skills of Feeling with the World: Embodied Memories and Affective Imagination Skills	朱雀キャンパス	2018年2月	25名	

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)					
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間	
1	吉田武弘	書評: 小林和幸著『「国民主義」の時代』	『史林』、史学研究会、100-6号、2018年2月、124-30頁		
2	吉田武弘	「斎藤実宛後藤新平書翰紹介」(十河和貴ほか10名との共編)	『立命館文學』655、立命館大学人文学会、2018年2月(査読無し)、43-59頁		
3	吉田武弘	「選択」できる政治のために—近代日本政治史から考える	ライスボールセミナー、於立命館大学 2017年6月		
4	十河和貴	「解題: 斎藤実宛後藤新平書翰紹介」	『立命館文學』655、立命館大学人文学会、2018年2月(査読有り)、397-413頁		
5	織田康孝	アジア・太平洋戦争期における歌曲の利用—日本軍政下のジャワを事例として—(丸山彩との共同報告)。	第37回平和のための京都の戦争展ミニシンポ、於立命館大学国際平和ミュージアム、2017年8月		
6	山口一樹	歩兵第三百三十三連隊と武漢攻略作戦	嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学付属博物館編 『「外山重男: ある兵士の日常」展図録』2017年、2頁		
7	山口一樹	「斎藤実宛後藤新平書翰紹介」(吉田武弘ほか10名との共編)	『立命館文學』655、立命館大学人文学会、2018年2月(査読無し)、43-59頁		
8	西田彰一	国家と宗教を考える—寛克彦を事例として—(3回連載)	『文化時報』2018年3月7日(7面)、3月17日(7面)、4月4日(5面)		
9	丸山彩	アジア・太平洋戦争期における歌曲の利用—日本軍政下のジャワを事例として—(織田康孝との共同報告)。	第37回平和のための京都の戦争展ミニシンポ、於立命館大学国際平和ミュージアム、2017年8月		
10	林尚之	書評: 川口曉弘著『ふたつの憲法と日本人—戦前・戦後の憲法観』	『図書新聞』3330、2017年12月		
11	赤澤史朗	解説「福島啓氏資料 名古屋空襲訴訟—裁判運動の視点から」	公益財団法人・政治経済研究所附属・東京大空襲被災史料センター『空襲被災者運動関連資料目録4』(福島啓氏名古屋空襲訴訟関係資料・大竹正春資料・木津正男資料目録)、6~31頁、2018年3月		
12	奈良勝司	戊辰戦争と西郷①: 戦闘前後の駆け引きと万国公法	みやこまなび旅 2018、於平安女学院大学、2018年3月		
13	奈良勝司	戊辰戦争と西郷②: 戦闘の推移と西洋人医師	みやこまなび旅 2018、於平安女学院大学、2018年3月		
14	奈良勝司	幕末の「公議」と対外問題 —慶応元年—〇月の簾前評議を素材として—	第8回「歴史から現在(いま)を考える集い」、於平安女学院大学、2018年3月		
15	奈良勝司	歴史の越え方—「怨讐の彼方」を目指して—	国際シンポジウム、於平安女学院大学、2018年2月		

16	奈良勝司	ヨーロッパ中心史観からの脱皮と東アジア史 — 「公論」を手掛かりに —	第1回「公議」研究会シンポジウム、於立命館大学衣笠キャンパス、2018年2月	
17	奈良勝司	幕末政局のなかの丹波の郷土 — 一橋慶喜との関係を中心に —	第63回企画展 明治維新150年記念 山陰道鎮撫隊 — 丹波の郷土と幕末維新 — 関連講演、於亀岡市文化資料館、2018年2月	
18	奈良勝司	「一会桑」勢力と『公議』	〈幕末維新と桑名藩〉展 関連講演、於桑名市博物館、2017年11月	
19	谷徹	Doing Phenomenology in Different Ways	Investigacioness Phenoomenogicas, Societat Espanola de Phenomenologia	2018年3月
20	遠藤英樹	観光の風景にひそむポリティクス (社会的かけひき) — 神戸とニューヨークを事例に	川西市生涯学習短期大学レフネック	2017年9月30日 ～2017年9月30日
21	遠藤英樹	観光において「転移する地域アイデンティティ」 — 「よさこい祭り」と「YOSAKOI ソーラン祭り」を事例に	川西市生涯学習短期大学レフネック	2017年10月7日 ～2017年10月7日
22	遠藤英樹	遊園地、百貨店、そして宗教 — 私鉄文化が創出した観光	立命館大阪プロムナードセミナー 大阪・京都文化講座 (後期) 関西の私鉄文化	2017年11月4日 ～2017年11月4日
23	遠藤英樹	現代社会のテキストとしての「ツーリズム」	立命館大学 土曜講座	2017年12月2日 ～2017年12月2日
24	古村学	村田自然塾主宰勉強会「西表から見る世界自然遺産 — 知床と小笠原の事例から」	村田自然塾	2018年3月18日
25	Andrea DE ANTONI	世界神秘紀行 ～エクソシストVS悪魔	NHK放送、テレコムスタッフ社作成	2017年9月
26	Andrea DE ANTONI	闇語りバラエティ	YouTube 番組	2018年2月
27	Andrea DE ANTONI	The Skills of Feeling With the World: Affording New Affective Entanglements	Anthropology of Japan in Japan (AJJ)、大阪学院大学	2017年4月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
該当無し					

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1.	林尚之	近代日本立憲主義と戦後政治に関する総合的研究	基盤研究 (C)	2016年4月	2019年3月	代表
2.	奈良勝司	幕末維新期における「公議」の研究	基盤研究 (C)	2017年4月	2020年3月	代表
3.	城下賢一	ポスト55年体制における圧力団体・農協の政治活動の内在的・総体的把握	基盤研究 (C)	2018年4月	2021年3月	代表
4.	加國尚志	間文化性の理論的・実践的探求 — 間文化現象学の新展開	基盤研究 (B)	2014年4月	2019年3月	代表
5.	谷徹	間文化性の理論的・実践的探求 — 間文化現象学の新展開	基盤研究 (B)	2014年4月	2019年3月	分担
6.	亀井大輔	間文化性の理論的・実践的探求 — 間文化現象学の新展開	基盤研究 (B)	2014年4月	2019年3月	分担
7.	北尾宏之	間文化性の理論的・実践的探求 — 間文化現象学の新展開	基盤研究 (B)	2014年4月	2019年3月	分担
8.	林芳紀	間文化性の理論的・実践的探求 — 間文化現象学の新展開	基盤研究 (B)	2014年4月	2019年3月	分担
9.	佐藤勇一	間文化性の理論的・実践的探求 — 間文化現象学の新展開	基盤研究 (B)	2014年4月	2019年3月	分担

10.	伊勢俊彦	私が入りこみ、行動する世界の構成と自己の外部への依存の哲学的研究	基盤研究 (C)	2016年4月	2019年3月	代表
11.	青柳雅文	アドルノの亡命期間における現象学研究の解明	基盤研究 (C)	2017年4月	2020年3月	代表
12.	小林琢自	尾高朝雄の「現象学的」国家論における「全体」概念について	基盤研究 (C)	2017年4月	2020年3月	代表
13.	小田切建太郎	ハイデガーを核とした「中心」とパースペクティブ性に関する比較哲学及び現象学的研究	特別研究員奨励費	2017年4月	2019年3月	代表
14.	鈴木崇志	倫理的観点からのフッサール他者論の再構成	特別研究員奨励費	2016年4月	2019年3月	代表
15.	井澤友美	インドネシア・バリ州における民主化後のジレンマ:観光開発と文化保全	若手研究(B)	2015年4月	2019年3月	代表
16.	神田孝治	「地域文化」の概念的整理と現象分析への展開—地理学方法論の試みとして—	基盤研究(B)(代表:大城直樹)	2015年4月	2018年3月	分担
17.	加藤政洋	「地域文化」の概念的整理と現象分析への展開—地理学方法論の試みとして—	基盤研究(B)(代表:大城直樹)	2015年4月	2018年3月	分担
18.	石井香世子	日タイ・ジェンダー役割期待の比較研究	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
19.	古村学	世界自然遺産地域における野生生物と地域住民の関係にかんする比較研究	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
20.	韓準祐	身体障害者の観光の現状と阻害要因に関する実証的研究	若手研究(B)	2016年4月	2019年3月	代表
21.	大野哲也	ツーリズムによる災害復興に関する観光社会学的研究—居住者の生活の立場から	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
22.	小澤亘	デジタル図書によるトランスナショナルな外国人児童学習支援ネットワーク構築の研究	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
23.	加藤雅俊	批判的实在論に基づく現代国家の変容に関する総合的研究—社会統合の変遷に注目して	若手研究 (B)	2017年4月	2020年3月	代表
24.	遠藤英樹	アジアにおける平和の記憶を紡ぐメディアとしてのダークツーリズム	基盤研究 (C)	2017年4月	2020年3月	代表
25.	神田孝治	現代社会におけるツーリズム・モビリティの新展開と地域	基盤研究 (B)	2017年4月	2020年3月	代表
26.	羽谷沙織	カンボジア古典舞踊の観光化:観光舞踊が担う「正しい」クメール文化の表象と妥協	若手研究 (B)	2017年4月	2020年3月	代表
27.	加藤政洋	戦後沖縄の(基地経済)と都市の空間編成に関する地理学的研究	基盤研究 (C)	2017年4月	2020年3月	代表
28.	四本幸夫	日本の世界農業遺産(GIAHS)地域の観光を通じた農村振興に関する比較研究	基盤研究 (B)	2017年4月	2020年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	羽谷沙織	アジアにおける地域農業振興の道具としてのGIの潜在力:日本とカンボジアの比較から	ロッテ財団2017年度奨励研究助成(研究代表者ハート・フォイヤー)	2017年2月	2019年3月	分担

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
該当無し								